

kokyoso tsushin
高教組通信 No.11 2013年9月6日
 兵庫高教組書記局

URL: <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail: honbu@hyogo-kokyoso.com

高校通学区拡大で不安を煽り 「進路選択支援」を名目に統一模試実施

栗原元教育長らが「兵庫県進路選択支援機構」を創設し、県内全中学生を対象に「統一模試」実施の準備を進めていることが新聞報道で明らかになりました。高校通学区を拡大し生徒と保護者の競争と不安を煽り、営利を目的とした統一模試の実施で県教委幹部や管理職の天下り先を確保するようなやり方は重大な問題です。

中学生の志望校選びをサポートする一般財団法人「兵庫県進路選択支援機構」が設立された。県内の教育関係者ら約20人でつくり、全中学校を対象に県内の「統一模試」を初めて実施したり、インターネットの専用サイトで積極的に情報提供したりして、希望校の進学を支援する。

◇中学校統一模試の内容

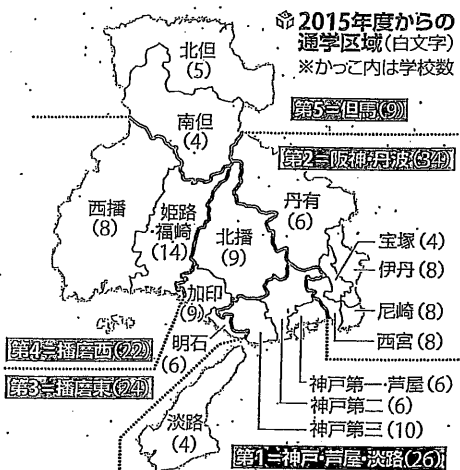
1. 名称 一般財団法人「兵庫県進路選択支援機構」が設立 2013年7月末
2. 理事長 栗原高志 (元兵庫県教育長)
 評議員や理事 貝原俊民・前知事や県教委OBらが務める
3. 県内の全中学生を対象に統一模試実施
 - ①受験料 4000円
 - ②中学三年生 今年11月に実施
 - ③中学一・二年生 来年1月実施
4. 志望校の合格に必要な学力の到達度を測る
 5段階で評価する

【読売新聞2013年8月10日から】

栗原高志 (元教育長) 理事長の発言

「序列化は避けられず、県民も自然とつけている。内申点につながる通知票の申告もしてもらい(模試と合わせて)学習到達度を評価したい」
 「どんな高校で何を学びたいのかと悩む中学生の思いにこたえたい」…

県がすすめる2015年度の公立高校の学区再編とセットで用意されている中学生の統一模試。右にあげるような問題だらけです。



問題点その1 県教委の『行きたい学校へ』と正反対の「輪切り」推進

県教委は今回の統一模試について沈黙し、事実上容認しています。学区拡大を強行すれば県下の全普通科高校を偏差値でランキング付けしなければ、生徒や保護者は進学先を決められないことを認めたとはいわれても仕方ありません。しかし「高校の特色化」「選択肢の拡大」などの施策は、結局高校と生徒、保護者を競争へと追い立てるまやかしのスローガンであったことが、今回の問題を通して名実ともに明らかになったといえます。

問題点その2 「学校は特色」ではなく「成績」で選択へ

県教委は、高校には「特色をだしなさい」といって特色化競争をあおってきました。しかし、結局は、中学生に模試を実施して成績で高校を選ぶこととなります。学区拡大によって20校～30校が順位付けさせてますます競争が激化して、中学校も本来の教育を行えなくなります。中学校も高校も競争に巻き込まれて、学校間の序列化がすすみ、子どもたちが疲弊していくことは目に見えています。

問題点その3 元県教委関係者が「統一模試」を実施することの問題性

学区拡大により、模試に頼らざるを得なくなり、受験産業の稼ぎの場になります。「業者との癒着があるのでは」という指摘する声すらあります。模試の問題作成を教員のOBが行い、県教委の元職員らが問題を監修すること、模試の会場に中学校を使うこと、模試の監督は誰が行うのかなど問題点が山積みです。「兵庫県進路選択支援機構」は県教委の天下り先としか考えられません。

問題点その4 進路指導は塾や受験産業が行うようになり公教育の崩壊をまねく

県下の中学生全員に「統一模試」を行って、それをもとに中学生の進路指導をしていくということは、進路指導が中学校から受験産業や塾に移行してしまうということの意味します。公立学校の本来の任務が損なわれます。さらなる経済的に裕福な家庭や学力の高い子どもたちは、塾や受験産業に流れます。教育の中にも格差をうみ、公教育が崩壊することは明らかです。子どもたちが過酷な競争にかりたてることをやめ、本来の学校教育を取り戻すためにも、高教組は「学区再編」や「中学校の統一模試」「県進路選択支援機構」には反対します。「地域の子どもは地域の高校へ」を合い言葉に、県教委のすすめる学区再編について凍結を訴えます。

○通学区拡大計画の凍結署名を9月25日に
 県議会に提出する予定です！
 まだお持ちの方はぜひ本部に集中してください。
 通学区の拡大計画に待たをかけましょう！



○教育フォーラム
 11月2日(土) 13:30～神戸市勤労会館でシンポジウムを行います
 「高校通学区の拡大について」 地域の方や保護者の方にもぜひ参加を呼びかけて下さい！